これからの患者が求め、来院する病院の経営戦略と実践
～よくわかる病院機能評価認定（新規、更新）のポイントとデメリット～

病院機能評価認定(更新)のポイントとメリット

中嶋　照夫　　㈵松愛会　松田病院　事務長

1.　本報告の主旨と当院のプロフィール

病院機能評価の初回/更新受審を迎える病院関係者に、受審を受ける際のポイントとメリットを、当院の初回・更新受審事例について解説することにより役立て頂くことにある。当院の初回認定は平成 13 年、更新認定は平成 18 年 9 月である。

当院の概要；浜松市にある病床数 111 床、職員総数約 170 名で、消化器外科専門病院であり、上・下部内視鏡検査数約 10,000 例/年、大腸癌手術 120 例/年、肛門手術 1,000 例/年、炎症性腸疾患(UC、クローン病)の治療を多く手掛けている。

2.　医療機能評価受審の意義とメリット

医療機能評価を受ける事の最大の意義は、病院内だけでお茶を濁してきた改革を、期日までに仕上げ、その仕上がり具合を第三者に披瀝する、という状況を作る事である。その出来栄えは、(財)日本医療機能評価機構の評価項目を基に否応なしに優劣がつけられる。従って、上手くすれば競ってよいものを作ろうとする機運が院内に芽生える。これもメリットの一つである。一方、遅々として進まなかった院内の改革が受審のためにという神風によって、異を唱えてきた職員も従わざるを得なくなり、改革が一気に進むことも大きなメリットである。

3.　更新受審の準備

当院では、更新受審の準備に向け、概ね 1 年半前(H17.1)に 5 名のプロジェクトチームを組織し、その 3 ヶ月後に 10 名で構成される委員会を立ち上げた。

活動内容は、自己評価で c 項目を洗い出し、各部署に課題を提示した。この後、委員会を毎月 1 回開催し、課題の消化とスケジュールの確認とを督励し続け、ついにそれは受審当日まで続いた。また、全職員を対象として「機能評価とは」とのレクチャーを 4 回開催し、職員への周知を図った。

4.　初回受審・更新受審に不可欠な条件について(キーマン、熱意、受審経験等)

事務職員やコメディカル職員は初回認定時のメンバーとほぼ同じであるが、医師、看護師の多くは入れ替わっている。一方、病院機能評価の審査側の考え方や評価尺度も、Ver.3 から Ver.5 へと当時とは比較にならない位変化してきている。

受審病院の心得として経験者の存在はあまり重要なことではなく、『改善』に向けたキーマンの存在と、その人を核として変革への必要性と熱意を病院全体で共有できるかが一番重要な事であった。受審経験者のいない病院でも、少しも不利にはならない。たとえ初回受審であれ、臆する必要は全く無いと考える。

5.　Ver.5 の特質

病院機能評価は病院医療の『機能を計って、質を評価』するものであり、評価項目はその時々で医療サービス提供者に求められるある意味で理想状態を目標値として設定されており、その到達度が審査される。従って、病院の現状と比べ余りに高いハードルと意気消沈することも、辟易してしまう事も謂われなく、要はそれに向けた改善と改革に全職員で努力して評価レベルに如何に近付けるかが、認定可否の分かれ目になる。

当院でも「退院時サマリーの問題」と「外来患者のプライバシーの問題」が当初から大きな欠格要件として認識されていたが、Ver. 5 の特質を踏まえて熱心に取り組むことにより一応克服する事ができた。

6.　更新受審結果と評価調査者(サーベイヤー)活動

平成 18 年 6 月に更新受審をして、9 月初旬に認定証を交付された。結果は、決して胸を張れるレベルでの認定とは理解していない。今後の 5 年間でオール 5 の評価にブラッシュアップできるよう、病院機能評価プロジェクトの再招集を予定している。

(財)日本医療機能評価機構の評価調査者(サーベイヤー)としてのこれまでの経験も踏まえて、当院を含めた中小病院の医療の質向上に向けた活動を続けていきたい。